

B-8 水のしわに対する作用に就いての一知見
和洋女子大文家政 寺田久美子 我妻美奈子 の伊藤秀三郎

目的 被服のしわが発生また消失するのは、材料である繊維のもつ二性質、降性型性の共有のためである。さてこの実験の目的は何であるかと云えば、しわ発生と消失とに対する水分の影響である。

方法 試料には吸水性の比較的大きい親水性のもの、吸水性の小さい疎水性のもの及び此物に親水性繊維を混紡したものとを用い、組織は平織系統である。

しわの発生に対しては布せん断測定装置を用い、せん断しわ発生を吟味した。この装置をインストロン型伸長測定装置のクロスヘッドに固定し、そのロードセルと垂直方向に、四角形のクランプの一端とをアルミの連結棒で連結した。クランプに試料を装着し、クロスヘッドを上下動かすことによりクランプを菱形にし、せん断変形を試料に与えることにした。かくてしわ発生時のせん断角は、ロードセルを通じて画かれるせん断力せん断角曲線から求めた。尚試料の大きさは10cm²平方である。

しわの消失に対してはJIS-L1079の防しわ率測定A法を用いて吟味した。即ち1×4cm²大きさの試料をたこ、よこ方向に用意し、次の如き処置を行った後JRC防しわ試験機の試料セット垂直板上にのせ5分間放置し、用角度を測定した。

水分率は直示天秤で計量した乾燥前重量と絶乾重量とから求め、乾燥は赤外線乾燥機に依った。

結果 一般に湿润はせん断角用角度共に小さくし、しわ発生を容易に消失を困難にし、尚且前者では親水性繊維が疎水性のものより甚しいことが思考された。